

## 1. 第7次高浜市総合計画

「将来都市像」～高浜市が目指すべき姿のキャッチフレーズ～

人と想いが つなぐつながる しあわせなまち 大家族たかはま

【個別目標】地域経済を活性化し、元気なまちをつくります

## 2. 目指す姿

SDGs「誰一人取り残さない」

利便性の高い市民に喜ばれる地域公共交通

～みんなで創る、住みやすいまちづくりの基盤～

## 3. 目指す姿設定の背景

- 「骨太方針 2022」（令和4年6月7日閣議決定）において、デジタル田園都市国家構想の実現に資する多彩な地域生活圏の形成のため、**交通事業者と地域との共創等により持続的で利便性の高い地域公共交通ネットワーク**へ再構築する方針が**政府全体の重要施策**として位置づけられた。
- 地域公共交通は、**生活の不安を解消し、安全・安心でくらしやすく魅力あふれる地域を作り上げるために必要な基盤的サービス**である。
- 2025（令和7）年度に団塊世代が全員後期高齢者になるなど**高齢化や運転免許証返納が進展し、市民が老後に抱える移動に対する不安**が高まっている。（高齢者が運転する自家用車の**交通事故減少**、**高齢者の外出機会増加による医療費が削減**され、**全体として費用負担が下がる**面もある。）
- 買い物支援、経済活性化、地域コミュニティの強化、教育、都市基盤整備、脱炭素化への対応、まちのブランドイメージ向上、災害時の避難手段の確保など**諸施策との連携による多面的な効果**により、**もっと自分らしく安心して生活できる住みやすいまちの実現**を図る。
- 交通分野における**DX・GX**は、**交通サービスの生産性・効率性・利便性の向上を可能**とする。

## 4. 目標（現状→令和9年度）

### 目標1 市民満足度の向上（34%→60%以上）

市内を気兼ねなくちょっと移動できる足として**便利と思う市民の割合60%以上**（令和5年2月のアンケートでは、いきいき号について「とても便利に思う」「便利に思う」が合わせて34.0%）

### 目標2 交通空白地域ゼロ（48.9%→100%）

200m半径における**人口カバー率100%**（行政面積における停留所圏内カバー率は、令和5年4月現在48.9%）

### 目標3 市民、地域、事業者との連携強化（0社→20社以上）

コミュニティバスに共感、停留場設置など連携する**事業スポンサー数20社以上**

### 目標4 利用者数の増加（13,567人→20,000人）

コミュニティバスの**実利用者数20,000人**（第7次総合計画目標値、令和4年度13,567人から約50%増加）

## 5. 方針

方針1  
**誰もが利用できる**  
コミュニティバス

方針2  
**生産性・効率性・利便性の高い**  
コミュニティバス

方針3  
市民、地域、事業者及び行政など  
**みんなが関わり、支え育てる**  
**持続的なコミュニティバス**

## 6. 取組

- 1 停留所の設置及び利用促進等に**市民、地域、事業者とともに**取り組みます！
- 2 市民の利便性向上及び環境負荷低減のため、**デジタル技術を最大限活用**します！
- 3 コミュニティバスの持続性を高めるため、**商店・事業者等との連携を強化**します！
- 4 地域公共交通全体の**利用促進につながる仕組みづくりや情報発信**に取り組みます！
- 5 外出促進など**様々な施策と連携**し、市民満足度が高まる取組を進めます！
- 6 市内全域をカバーするために**運行形態を大改編**します！